

レジメンスケジュール

診療科	呼吸器内科
適応	切除不能な局所進行例で根治化学療法放射線療法が施行された非小細胞肺癌
レジメン	肺デュルバルマブ療法

申請・改訂日	2018年11月
備考	

クール関連
最大26コース(1年間)

使用した臨床データ
がん化学療法レジメンハンドブック

全クール(14日間)																			
投与順	抗がん剤	薬品名	投与量	投与方法	時間・速度	備考	day1	day14
①		生理食塩液	100mL	メイン	ルートキープ	残フラッシュ	○												
②	○	デュルバルマブ	10mg/kg	メイン	60分	要フィルター	○												
		生理食塩液	100mL																

終了

減量・中止基準

デュルバルマブ		
副作用	程度	対処法
間質性肺疾患	G2	G1以下に回復するまで休薬する。
	G3以上	投与中止
肝機能障害	AST/ALT値が基準値上限の3～5倍以下または総ビリルビン値が基準値上限の1.5～3倍以下まで増加した場合	G1以下に回復するまで休薬する。
	AST/ALT値が基準値上限の8倍以下または総ビリルビン値が基準値上限の5倍以下まで増加した場合	
	AST/ALT値が基準値上限の8倍超または総ビリルビン値が基準値上限の5倍超まで増加した場合	投与中止
	AST/ALT値が基準値上限の3倍超かつ総ビリルビン値が基準値上限の2倍超まで増加し、本剤以外に原因が無い場合	投与中止
大腸炎/下痢	G2	G1以下に回復するまで休薬する。
	G3以上	投与中止
甲状腺機能亢進症、副腎機能不全、下垂体機能低下症	G2以上	症状が安定するまで休薬
腎機能障害	血清クレアチニン値が基準値上限またはベースラインの1.5～3倍まで増加した場合	G1以下に回復するまで休薬する。
	血清クレアチニン値が基準値上限またはベースラインの3倍超まで増加した場合	投与中止
筋炎	G2-3	G1以下に回復するまで休薬する。30日以内にG1以下まで回復しない場合または呼吸機能不全の兆候があらわれた場合は、本剤の投与を中止する。
	G4	
皮膚障害	G2で1週間以上継続した場合またはG3	G1以下に回復するまで休薬する。
	G4	投与中止
心筋炎	G2	G1以下に回復するまで休薬する。心筋生検で心筋炎を示唆する所見が認められた場合は、本剤の投与を中止する。
	G3-4	
重症筋無力症	G3	G1以下に回復するまで休薬する。G1以下まで回復しない場合、または呼吸機能不全や自律神経失調の徴候が現れた場合、投与を中止する。
	G4	
Infusion reaction	G1-2	投与を中断もしくは投与速度を50%減速する。
	G3以上	投与中止
上記以外の副作用 (甲状腺機能低下症 や1型糖尿病除く)	G2-3	G1以下に回復するまで休薬する。
	G4	投与中止